

「負た子に教えられ」

株式会社グッドバンカー
リサーチチーム

1929年にオランダのロッテルダムに設立された資産運用会社ロベコは、責任投資分野における世界的なリーディングカンパニーでもあります。その運用資産残高（AUM）は1,890億ユーロ（約16.5兆円）であり、世界15ヶ国で1,507名の従業員を有しています（2012年12月末時点）。特に2012年は高い業績を挙げ、同社の商品の65%がベンチマークをアウトパフォームするなど、AUMは前年度比26%増加しました。

2007年、チューリッヒを拠点とするサステナビリティに特化した運用会社であるSAMを買収し、2013年にSAMはロベコSAMに社名変更しました。ロベコSAMは、サステナビリティ投資に特化した商品およびサービスを幅広く提供しており、主要なグローバル企業におけるサステナビリティへの取り組みに関する年次調査を行う、「コーポレート・サステナビリティ評価（CSA）」が主な業務の一つです。そしてこの評価が、1999年に設定され、世界で最も長いトラックレコードを持つサステナビリティ指数である、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ指数（DJSI）のリサーチの根幹となっています。ロベコおよびロベコSAMは、共に国連責任投資原則（UNPRI）にも署名しています。

2013年2月、このサステナビリティ投資の世界で歴史のあるロベコを、ある日本の金融サービス企業を買収することを発表し、7月に手続きが完了しました。ロベコは、顧客に対して付加価値を提供するという同社の経営方針に基づく事業戦略、顧客サービス、投資プロセスや組織体制などを維持するとともに、CEOも引き継ぎ、現行の経営体制を継続しています。

ロベコを買収した日本企業のある社員は、UNPRIへの署名など、自社に対してもロベコ側からサステナビリティへの取り組みを求められるようになったと驚いています。ロベコを買収によって、この日本企業が責任投資にも積極的になる可能性があると考えています。子会社から親会社に対するはたらきかけによって、本体の事業戦略がサステナブルになる好例で、「負た子に教えられ」という日本の古いことわざを彷彿とさせます。

両社が持つグローバルなネットワークと、ロベコの高い収益性とサステナビリティ投資の実績が、いかに両社の経済性と社会性のシナジー効果、ブランド価値の上昇をもたらすのか、注目されます。